

2. レスリング競技における多職種連携 ～アスレティックトレーナーの立場から～

Interdisciplinary collaboration in wrestling ～From the athletic trainer's perspective～

大山貴裕*1,2

●はじめに

レスリング競技における多職種連携は、大会運営、プレホスピタルケア、選手のパフォーマンス維持・向上、ケガの予防などを支えるうえで重要な役割を果たしている。それらは、多職種の協働なくしては、果たすことができない。またアスレティックトレーナーは、選手・スタッフ・メディカルをつなぐ調整役としての役割も担っている。

●トレーナー部会について

(公財)日本レスリング協会は役員・事務局・委員会から構成されており、委員会は16の委員会が設置され、その中にスポーツ医科学委員会がある。スポーツ医科学委員会は医科学に関わるメンバーが在籍しており、さらにスポーツ医科学委員会は医師部会・トレーナー部会・科学部会に分かれており、アスレティックトレーナーはトレーナー部会に在籍している。一部アンチドーピング委員会に在籍しているメンバーもいる。スポーツ医科学委員会の構成メンバーは、医科学委員長・医師部会部会長・トレーナー部会部会長・科学部会部会長・各部会より選任委員3名から構成されている。したがって、各部会は綿密に連絡を取れる体

制となっており、トレーナーとしては報告・連絡・相談がしやすい組織体制となっている。トレーナー部会を構成するメンバーの保有資格は、理学療法士・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・柔道整復師・鍼灸師などであり、20代から60代までが在籍している。代表付けトレーナーもトレーナー部会に在籍しており、選手・スタッフと綿密な連携が実現できている。

トレーナー部会の活動は、①大会救護・②海外遠征帯同・③全日本合宿帯同のサポート・④講習会や研修会のサポートがある。大会救護は、少年少女大会(12歳以下の大会)からシニア大会(全日本選手権など)までの年間20大会以上をトレーナー部会で担当している。大会救護に慣れた医師部会・トレーナー部会のメンバーが救護にあたることで、どの大会でも均一のサービスが実現できている。特に国民スポーツ大会など開催県が変る場合でも、レスリング協会には国民スポーツ大会委員会があり、国民スポーツ大会委員会と連携して医師部会・トレーナー部会より救護スタッフを派遣している。派遣メンバーの役割は、救護に関わるだけでなく、開催県の救護スタッフの指導も兼ねており、開催県のスタッフの中からトレーナー部会のメンバーとなるものもいる。

●医師部会との連携

国内主要大会の救護では、医師の指示によりマット上(試合)での止血補助や外傷により歩行不能となった選手の搬送などを実施している。救護メンバーが大会や日付ごとに変わるため、多職

*1 NTT 東日本関東病院リハビリテーション医療部

*2 (公財)日本レスリング協会スポーツ医科学委員会トレーナー部会

Corresponding author: 大山貴裕 (ph.ooyama.takahiro@zf6.so-net.ne.jp)

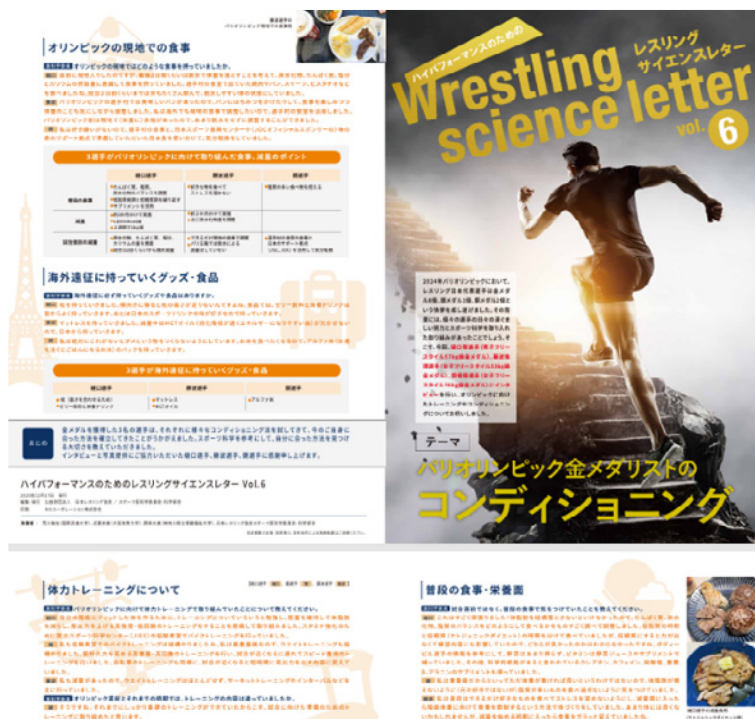


図1 サイエンスレター

ジュニアのための レスリングブック

元気に強くなるための医学と科学



図2 ジュニアのためのレスリングブック



図3 WRESTLING SCIENCE HUB

種で試合開始前に搬送練習を確認・実施している。大会救護のマット上(試合)での処置は、チームセコンドにメディカルスタッフを入れていない場合、大会救護班に処置が認められており、ほぼ全試合において大会救護班が担当している。試合中の止血時間は合計4分と決められている。時間を超過した選手は失格となるため、大会救護班は多職種で協力して迅速に止血処置をする必要があり、レフリーとの協力体制も重要となる。そのため、アスレティックトレーナーは試合開始前に止

血のためのテーピング方法なども情報共有し、確認している。トレーナー部会は、いくつかの異なる資格を有するアスレティックトレーナーから構成されているため、均一したサービスを提供できるように情報共有・確認を心がけている。救護ブースでのアスレティックトレーナーは、外傷・障害は医師の診断・指示・処方により、処置の補助などを実施し、口腔内や歯に関する外傷については、歯科医師の診断・指示により処置などの補

助を実施して救護活動を行っている。

●科学部会との連携

科学部会が中心となり、レスリング選手向けの【サイエンスレター】というものを定期的に発行している。(図1)ジュニア選手向けには【ジュニアのためのレスリングブック】というものを提供している。トレーナー部会もレスリングにみられるケガの特徴・回復・予防など、いくつかの項目で協力をしている。(図2) また全日本選手権会場にお

いて、レスリングの調査・研究をレスリング関係者に知っていただこうと【WRESTLING SCIENCE HUB】と題したポスター展示・動画視聴を実施している。(図3) トレーナー部会からもポスター展示・動画視聴を実施している。競技大会開催中は、科学部会のメンバーが常駐して説明や質問に答えるなど、レスリング関連の発表を大会会場で多くの人たちに目にしていただき、レスリング競技現場と医科学分野をつなぐ一助となることを期待している。